

概要版

令和元年度

奈良市民意識調査結果



(奈良市子育て応援キャラクター ももいろくじか)

令和2年3月
奈良市

目 次

はじめに	1
1. 定住意識について	2
2. 生活意識について	4
3. 市政について	6
4. 魅力・愛着について	8
5. 買い物環境について	12
6. 災害について	14
7. 情報通信機器等について	15
8. 地域づくりについて	16
インターネット回答について	18

はじめに

● 集計方法について

集計にあたっては、単純集計のほか、回答者の属性及び、設問間のクロス集計も行いました。過去の意識調査との違いとして、回答者の属性に関する設問を組み合わせることで、今回から新たに回答者の「世帯類型」と「ライフステージ」という考え方を取り入れました。

- ①世帯類型 … 回答者を10の世帯類型に分類し、類型ごとの意識の違いを知る
- ②ライフステージ … 子どもの有無別で、ライフステージが変わることでの意識の違いを知る

①世帯類型別の回答状況

属性	内容
全体	—
ひとり暮らし1	45歳未満、ひとり暮らし
ひとり暮らし2	45～64歳、ひとり暮らし
ひとり暮らし3	65歳以上、ひとり暮らし
夫婦のみ1	夫婦二人暮らし、子どもなし
夫婦のみ2	夫婦二人暮らし、子どもあり
子と同居1	学校教育期までの子と同居している親
子と同居2	学校教育期を終えた子と同居している親
親と同居1	45歳未満、子なしで親と同居
親と同居2	45歳以上、子なしで親と同居
祖父母と親と子	本人以外の親と子など、3世代で同居
不詳	上記以外

②ライフステージ別の回答状況

属性	内容
全体	—
子どもなし	—
1 単身1	45歳未満、独身
2 単身2	45～64歳、独身
3 夫婦のみ1	45歳未満、子どもなし
4 夫婦のみ2	45～64歳、子どもなし
5 高齢子どもなし	65歳以上、子どもなし
子どもあり	—
6 家族形成期	小学校入学前の乳幼児を持つ親
7 家族成長期	小学生～大学院生の子を持つ親
8 家族成熟期前期	子どもが独立している、子どもが全員独立している65歳未満の親
9 家族成熟期後期	子どもが全員独立している65歳以上の親
不詳	上記以外

1

定住意識について（問1～4）

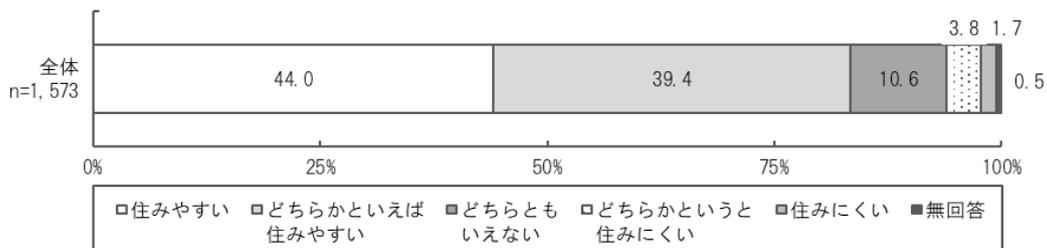
テーマの結果概要

- 奈良市での居住年数は、31～40年が18.9%で最も多く、31年以上の方が過半数。
- 現住所の直前に住んでいたところは、過半数が市外。
- 転居のきっかけの上位3つは、「住宅・マンションの購入」、「結婚」、「就職・転勤」。
- 現住所を転居先にした理由の上位3つは、「交通の便がよいから」、「住まいの周辺が静かだから」、「自分や家族の持ち家だから」。
- 居住する地域で83.4%の方が「住みやすい」又は「どちらかという住みやすい」と回答。
- 62.5%の方が「現住所に住み続けたい」と回答し、約6%が「市外に引っ越したい」と回答。
- 「市外に引っ越したい」と考えている方の引越のきっかけの上位は、「就職・転勤」、「子どもの成長・独立」。
- 「市外に引っ越したい」と考えている方が奈良市を選ばない理由の上位3つは、「交通の便が良くないから」、「日ごろの買い物等が不便だから」、「にぎわいや活気がないから」。

Pick Up 1 : 居住する地域の住みやすさの状況（問3）

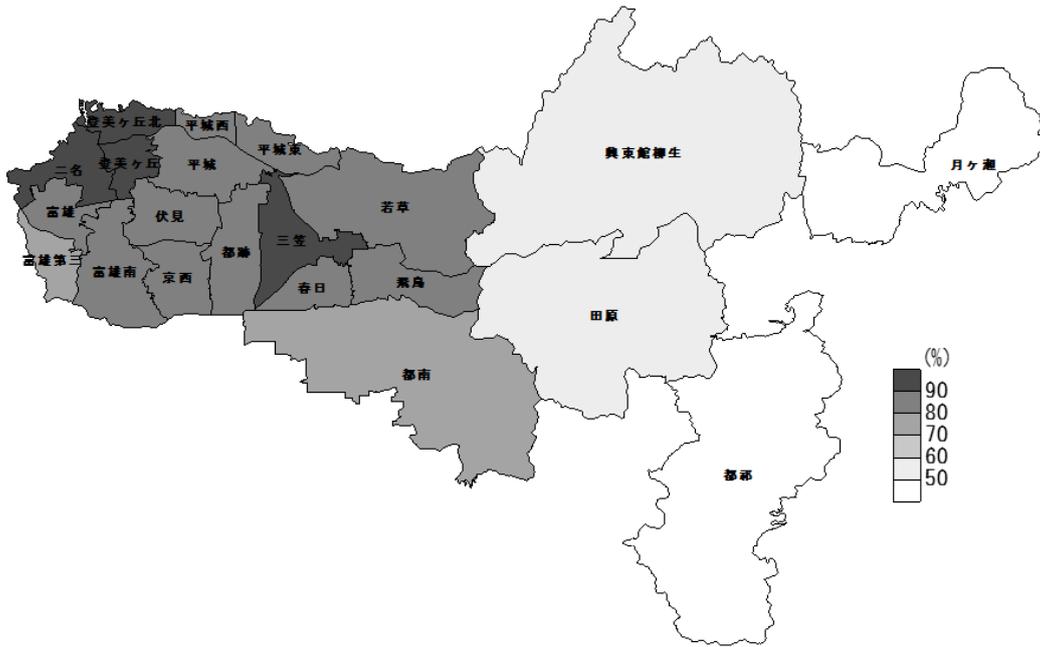
（1）単純集計

住んでいる地域が住みやすいかについて、回答者全体では、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計が83.4%となりました。



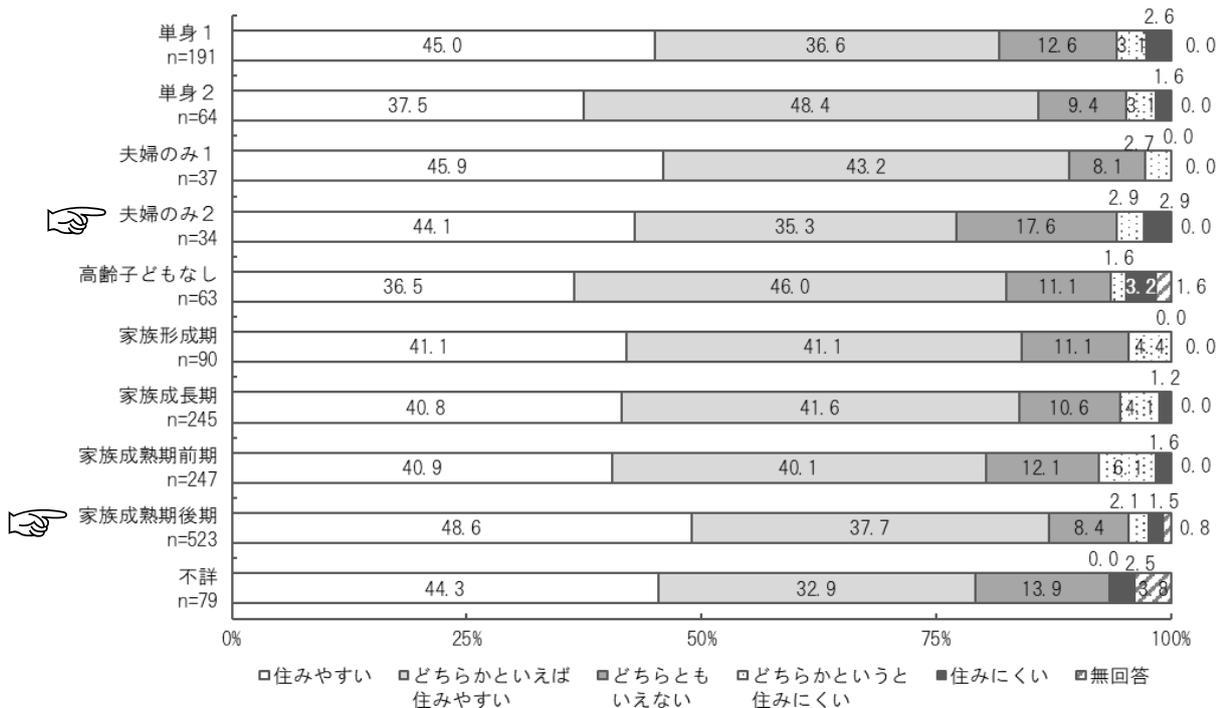
（2）クロス集計 ①中学校区別

中学校区別では、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計が市の西側で高くなっており、特に三笠、登美ヶ丘、登美ヶ丘北、二名で高くなっています。



(3) クロス集計 ②ライフステージ別

ライフステージ別では、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計が最も高くなっているのが、家族成熟期後期（子どもが全員独立している65歳以上の親）で86.3%、最も低いのが夫婦のみ2（45～64歳で子どもなし）で79.4%となっています。



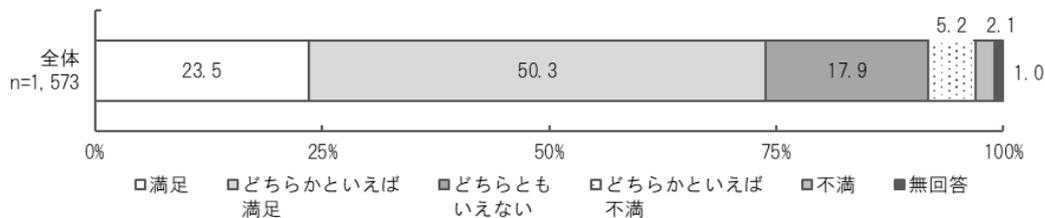
テーマの結果概要

- 生活満足度について、73.8%の方が「満足」又は「どちらかといえば満足」と回答。
- 生活満足度を点数で表すと、8点が29.4%で最も高く、7点以上をつけた方が過半数。
- 項目別で満足度が高いのは、「治安のこと」、「住まいのこと」、「健康のこと」が上位3つ。
- 相談ごとがあるときの相談相手について、「家族や親族」が81.9%で最も高く、次いで「隣近所の人や知人・友人」が34.2%。一方で、約4%の方が「相談相手がいない」と回答。
- 休日を過ごすためによく行く場所は、「奈良市内」が83.9%で最も多く、次いで「大阪市」が34.0%。

Pick Up 1：生活満足度の状況（問5）

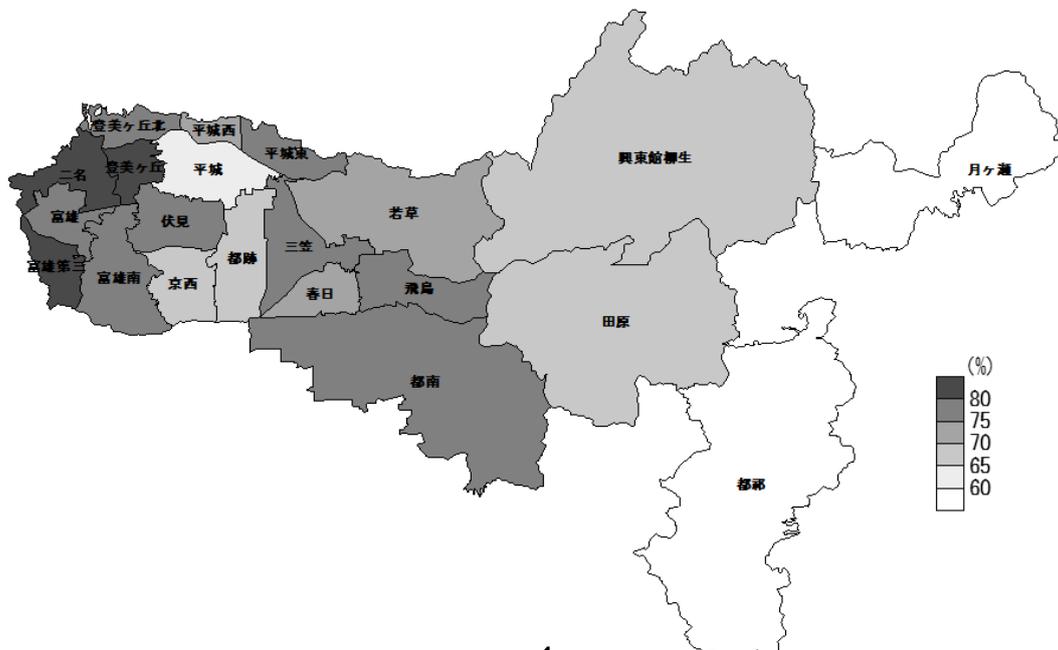
(1) 単純集計

今の生活に満足しているかについて、回答者全体では、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が73.8%となりました。



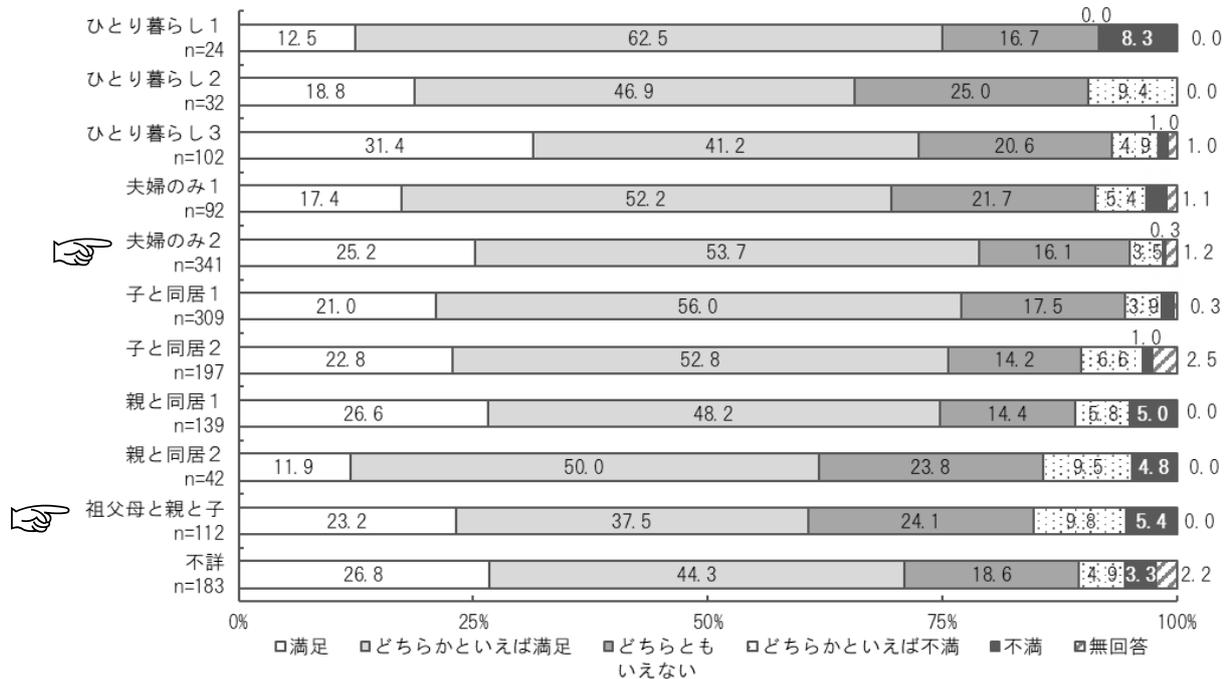
(2) クロス集計 ①中学校区別

中学校区別では、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が市の中央から西側にかけて高くなっており、特に登美ヶ丘、二名、富雄第三で高くなっています。



(3) クロス集計 ②世帯類型別

世帯類型別では、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が、最も高い世帯類型が夫婦のみ2（夫婦二人暮らしで子どもあり）で78.9%、最も低い世帯類型が祖父母と親と子（3世代）で60.8%となっています。



Pick Up 2 : 休日によく行く場所 (問8)

(1) クロス集計 ライフステージ別 (上位3位までの抜粋)

ライフステージ別でも、「奈良市内」が最も高くなっていますが、夫婦のみ1（45歳未満）夫婦のみ2（45～64歳で子どもなし）や家族形成期（小学校入学前の乳幼児を持つ親）、家族成長期（小学生～大学院の子を持つ親）では、「大和郡山市」が第2位となっています。

	1位		2位		3位	
全体	奈良市内	83.9	大阪市	34.0	大和郡山市	27.0
単身1	奈良市内	70.2	大阪市	55.0	大和郡山市	28.3
単身2	奈良市内	79.7	大阪市	35.9	京都市	21.9
夫婦のみ1	奈良市内	83.8	大和郡山市	43.2	大阪市	40.5
夫婦のみ2	奈良市内	91.2	大和郡山市	32.4	大阪市	26.5
高齢子どもなし	奈良市内	90.5	大阪市	20.6	京都市	14.3
家族形成期	奈良市内	84.4	大和郡山市	57.8	大阪市	37.8
家族成長期	奈良市内	80.0	大和郡山市	38.0	大阪市	35.1
家族成熟期前期	奈良市内	85.0	大阪市	36.4	大和郡山市	32.4
家族成熟期後期	奈良市内	89.7	大阪市	27.7	大和郡山市	17.0
不詳	奈良市内	81.0	大和郡山市	19.0	大阪市	19.0

テーマの結果概要

- 市政への関心は、「非常に興味がある」と「ある程度興味がある」の合計で62.0%。
- 分野別では、「医療・福祉」が67.8%で最も高く、次いで「防災・防犯・生活環境」で42.0%、「道路・公園等まちの整備」が34.4%。
- 奈良市の取組で評価するものについて、「歴史・文化遺産の保護・活用」が35.1%で最も高く、次いで「高齢者福祉の充実」が19.7%、「観光産業の振興」が17.0%。
- 一方で今後さらに力を入れるべきだと思うものについては、「高齢者福祉の充実」が42.3%で最も高く、次いで「ムダのない行財政運営」が38.4%、「道路・歩道の整備や補修」が38.1%。
- 子育て支援の推進に関する取組については、「満足」と「やや満足」の合計が25.4%となっているが、平成21年度と比較すると4.3ポイント増加。

Pick Up 1 : 奈良市の取組で評価するもの（問11-①）

（1）クロス集計 ライフステージ別（上位3位までの抜粋）

ライフステージ別でも、ほとんどの属性で「歴史・文化遺産の保護・活用」が1位となっていますが、家族形成期（小学校入学前の乳幼児を持つ親）では、「子ども・子育て支援」が1位となっています。

	1位		2位		3位	
全体	歴史・文化遺産の保護・活用	35.1	高齢者福祉の充実	19.7	観光産業の振興	17.0
単身1	歴史・文化遺産の保護・活用	37.2	観光産業の振興	24.1	文化・芸術の振興	22.5
単身2	歴史・文化遺産の保護・活用	40.6	公園・緑地の整備	23.4	地域医療の充実	18.8
夫婦のみ1	歴史・文化遺産の保護・活用	37.8	文化・芸術の振興	24.3	道路・歩道の整備や補修	21.6
夫婦のみ2	歴史・文化遺産の保護・活用	41.2	文化・芸術の振興	32.4	道路・歩道の整備や補修	17.6
高齢子どもなし	歴史・文化遺産の保護・活用	34.9	高齢者福祉の充実	27.0	ムダのない行財政運営	19.0
家族形成期	子ども・子育て支援	33.3	歴史・文化遺産の保護・活用	27.8	文化・芸術の振興	21.1

	1位		2位		3位	
家族成長期	歴史・文化遺産の保護・活用	38.4	子ども・子育て支援	27.8	教育環境の充実	25.3
家族成熟期前期	歴史・文化遺産の保護・活用	36.0	子ども・子育て支援	17.4	観光産業の振興	17.4
家族成熟期後期	歴史・文化遺産の保護・活用	35.0	高齢者福祉の充実	31.5	防災・防犯の取組	20.3
不詳	高齢者福祉の充実	39.2	道路・歩道の整備や補修	22.8	ムダのない行財政運営	21.5

Pick Up 2 : 奈良市が今後さらに力を入れるべきだと思うもの（問11-②）

（1）クロス集計 ライフステージ別（上位3位までの抜粋）

ライフステージ別でも、多くの属性で「高齢者福祉の充実」が1位となっています。家族形成期（小学校入学前の乳幼児を持つ親）や家族成長期（小学生～大学院の子を持つ親）では、「子ども・子育て支援」や「教育環境の充実」が上位になっており、特に家族形成期における「子ども・子育て支援」は80.0%となっています。

	1位		2位		3位	
全体	高齢者福祉の充実	42.3	ムダのない行財政運営	38.4	道路・歩道の整備や補修	38.1
単身1	道路・歩道の整備や補修	34.0	地域医療の充実	30.9	子ども・子育て支援	30.4
単身2	高齢者福祉の充実	39.1	ムダのない行財政運営	37.5	地域医療の充実	35.9
夫婦のみ1	道路・歩道の整備や補修	43.2	子ども・子育て支援	32.4	地域医療の充実	32.4
夫婦のみ2	高齢者福祉の充実	35.3	地域医療の充実	29.4	道路・歩道の整備や補修	29.4
高齢子どもなし	高齢者福祉の充実	50.8	ムダのない行財政運営	36.5	道路・歩道の整備や補修	30.2
家族形成期	子ども・子育て支援	80.0	教育環境の充実	54.4	道路・歩道の整備や補修	38.9
家族成長期	教育環境の充実	46.5	子ども・子育て支援	44.1	道路・歩道の整備や補修	37.6
家族成熟期前期	高齢者福祉の充実	48.2	ムダのない行財政運営	47.8	地域医療の充実	39.7
家族成熟期後期	高齢者福祉の充実	56.4	ムダのない行財政運営	47.8	道路・歩道の整備や補修	43.0
不詳	高齢者福祉の充実	46.8	道路・歩道の整備や補修	30.4	ムダのない行財政運営	27.8

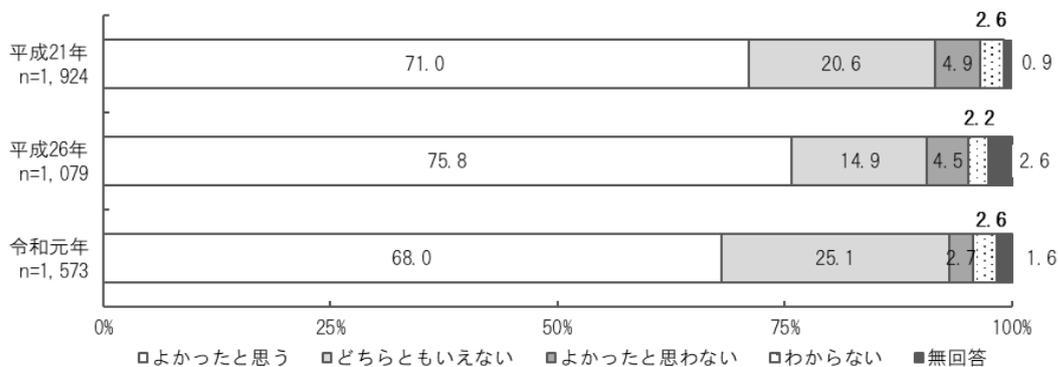
テーマの結果概要

- 68.0%の方が奈良市に住んでよかったと回答。
- 奈良市への愛着については、「強く愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」の合計が81.0%となり、平成21年と比較して、7.5ポイント増加。
- 奈良市に当てはまるイメージは、「伝統的」が59.4%で最も高く、次いで「保守的」が47.6%、「ゆったりとした」が45.9%となっています。

Pick Up 1：居住満足感の状況（問14）

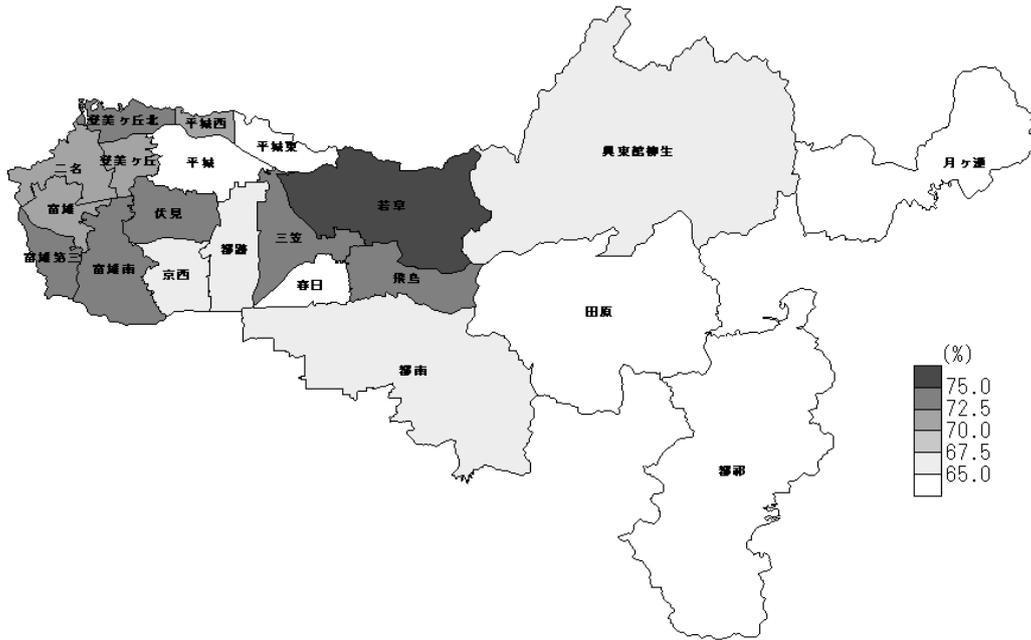
（1）単純集計

奈良市に住んでよかったと思うかについて、「よかったと思う」が68.0%で最も高く、なっていますが、平成21年調査と比較して、3.0%低くなりました。



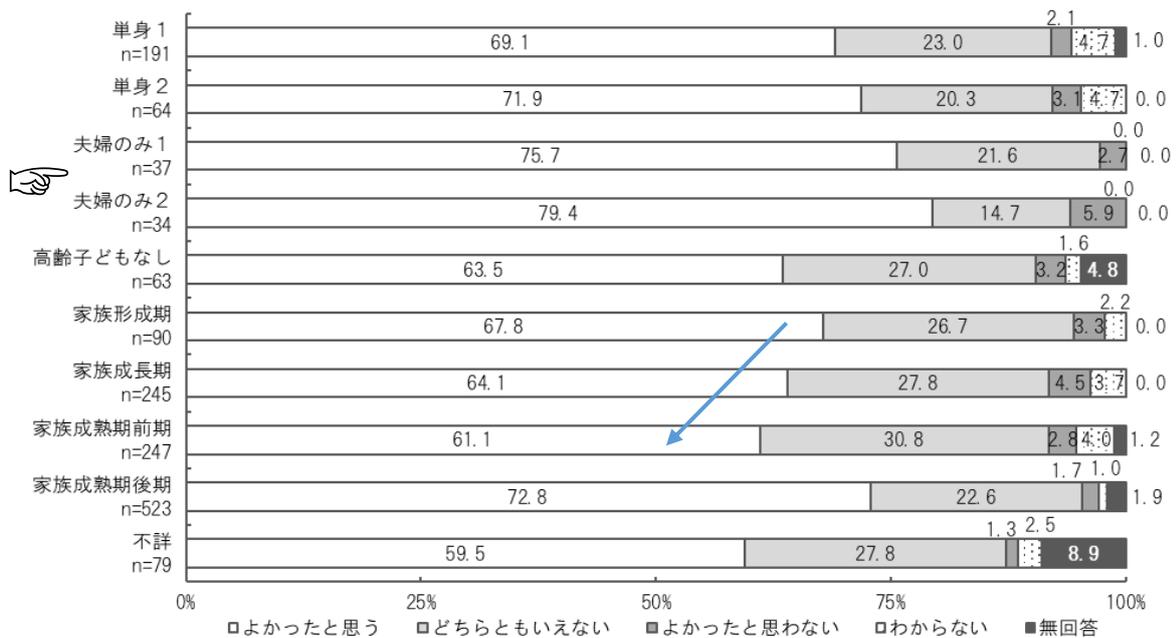
（2）クロス集計 ①中学校区別

中学校区別では、「よかったと思う」が市の中央部から西側の方が高くなっており、若草で最も高くなっています。



(3) クロス集計 ②ライフステージ別

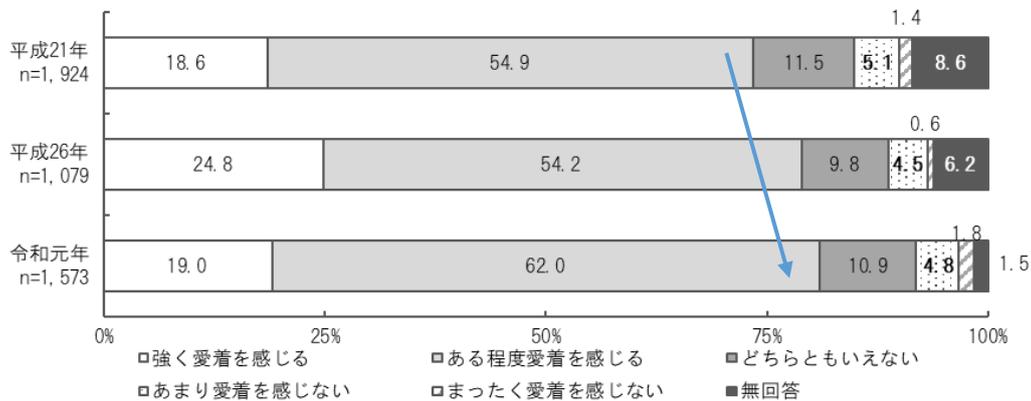
ライフステージ別では、子どもがいない属性では、夫婦のみの属性で「よかったと思う」が特に高くなっています。一方、子どもがいる属性では「よかったと思う」が家族形成期（小学校入学前の乳幼児を持つ親）から家族成熟期前期（子どもが独立している65歳未満の親）にかけて減少しています。



Pick Up 2 : 奈良市への愛着度の状況 (問15)

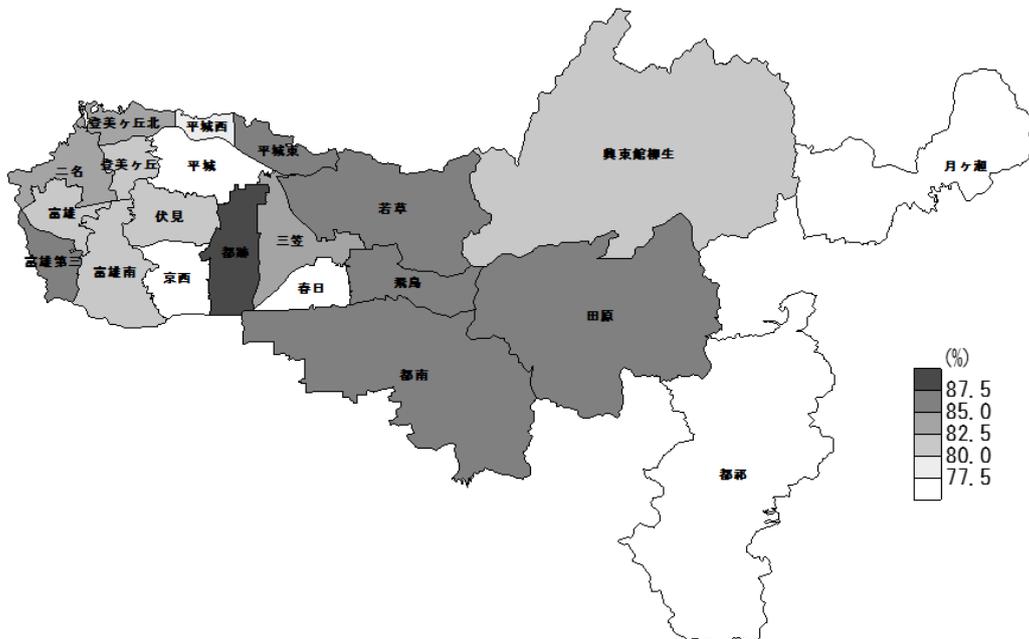
(1) 単純集計

奈良市に愛着を感じているかについて、「強く愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」の合計が81.0%となっており、平成21年から7.5%上昇しています。



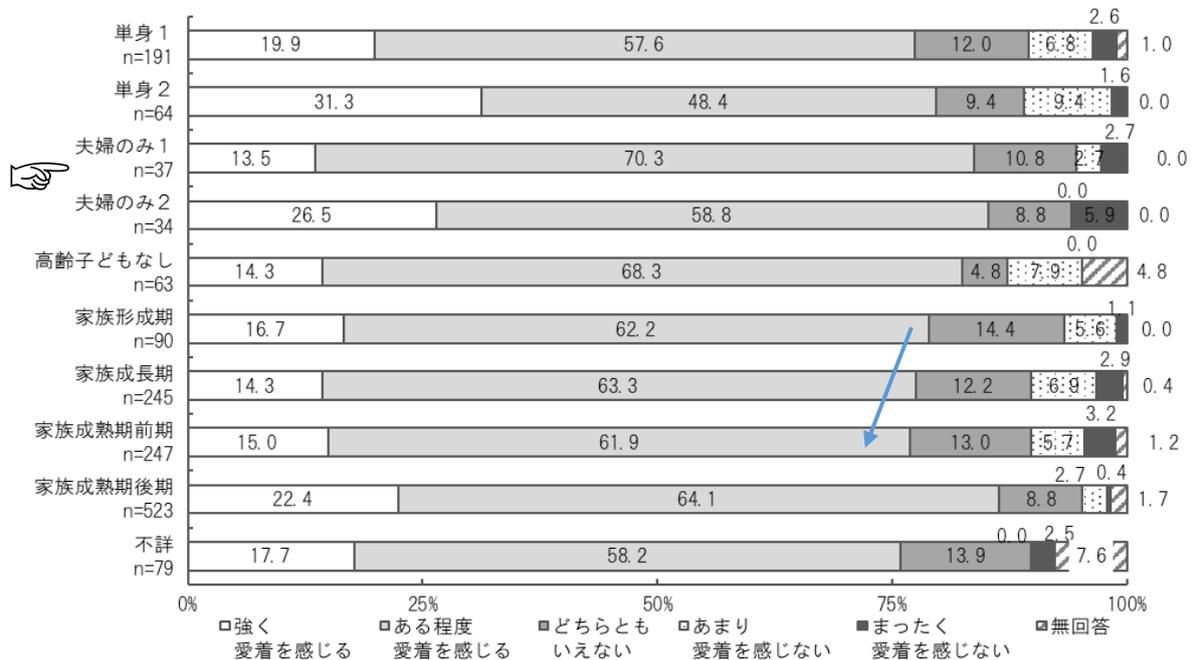
(2) クロス集計 ① 中学校区別

中学校区別では、「強く愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」の合計が市の中央部周辺で高くなっており、特に都跡で最も高くなっています。



(3) クロス集計 ②ライフステージ別

ライフステージ別では、子どもがいない属性では、夫婦のみの属性で「強く愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」の合計が高くなっています。一方、子どもがいる属性では「強く愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」の合計が家族形成期（小学校入学前の乳幼児を持つ親）から家族成熟期前期（子どもが独立している65歳未満の親）にかけて減少しています。



テーマの結果概要

- 食料品や衣料品、日用品を購入する場所は、「スーパーマーケット」が89.9%で最も高く、次いで「ショッピングモール」が52.5%。
- 買い物の際の不便さや困りごとについては、「店までの距離が遠い」が26.6%で最も高くなっているが、一方で「特に不便や困っていることはない」が47.2%。
- 買い物環境の改善に必要なものについては、「お店で買った商品の配達」が21.4%で最も高く、次いで「公共交通機関の充実」が19.8%。

Pick Up 1 : 買い物の際の不便さや困りごとの状況（問19）

（1）クロス集計 ① 中学校区別

中学校区別では、市の東側の田原、興東館柳生、月ヶ瀬、都祁だけではなく、市の中央から西側にかけて若草、平城東、富雄第三においても「店までの距離が遠い」が最も高くなっています。

	1位		2位		3位	
全体	特に不便や困っていることはない	47.2	店までの距離が遠い	26.6	バスや電車の停留所・駅まで遠い	11.9
春日	特に不便や困っていることはない	59.0	店までの距離が遠い	19.0	バスや電車の停留所・駅まで遠い	10.5
三笠	特に不便や困っていることはない	57.5	重い物が持てないため、一度に少量しか購入できない	13.7	店までの距離が遠い	11.8
若草	店までの距離が遠い	44.3	特に不便や困っていることはない	30.9	重い物が持てないため、一度に少量しか購入できない	14.4
伏見	特に不便や困っていることはない	44.2	店までの距離が遠い	18.4	自家用車や自転車の運転に自信がない	12.9
富雄	特に不便や困っていることはない	48.2	店までの距離が遠い	24.1	バスや電車の停留所・駅まで遠い	13.9
都南	特に不便や困っていることはない	46.3	店までの距離が遠い	25.3	バスや電車の停留所・駅まで遠い	13.7
田原	店までの距離が遠い	73.3	バスや電車の停留所・駅まで遠い	40.0	特に不便や困っていることはない	20.0
興東館柳生	店までの距離が遠い	61.9	特に不便や困っていることはない	23.8	バスや電車の停留所・駅まで遠い	19.0

	1 位		2 位		3 位	
登美ヶ丘	特に不便や困っていることはない	50.0	店までの距離が遠い	16.0	家族の協力がないと、買い物ができない	12.3
平城西	特に不便や困っていることはない	65.0	店までの距離が遠い	16.7	自家用車がない	13.3
二名	特に不便や困っていることはない	54.3	店までの距離が遠い	21.4	重い物が持てないため、一度に少量しか購入できない	12.9
京西	特に不便や困っていることはない	34.1	店までの距離が遠い	30.6	バスや電車の停留所・駅まで遠い	18.8
富雄南	特に不便や困っていることはない	54.9	店までの距離が遠い	22.0	重い物が持てないため、一度に少量しか購入できない	8.5
平城	特に不便や困っていることはない	49.4	店までの距離が遠い	27.0	重い物が持てないため、一度に少量しか購入できない	18.0
飛鳥	特に不便や困っていることはない	48.1	店までの距離が遠い	36.5	バスや電車の停留所・駅まで遠い	11.5
登美ヶ丘北	特に不便や困っていることはない	62.5	店までの距離が遠い	17.5	家族の協力がないと、買い物ができない	7.5
都跡	特に不便や困っていることはない	50.0	店までの距離が遠い	27.5	自家用車がない	10.0
平城東	店までの距離が遠い	43.9	特に不便や困っていることはない	40.4	自家用車がない	12.3
月ヶ瀬	店までの距離が遠い	81.3	バスや電車の停留所・駅まで遠い	18.8	特に不便や困っていることはない	12.5
都祁	店までの距離が遠い	80.0	バスや電車の停留所・駅まで遠い	35.0	特に不便や困っていることはない	25.0
富雄第三	店までの距離が遠い	51.6	特に不便や困っていることはない	35.5	バスや電車の停留所・駅まで遠い	29.0

テーマの結果概要

- 災害に対する備えは、「食糧や水の備蓄」が53.2%で最も高く、次いで「避難場所や避難方法の確認」が38.1%、「非常持出品（袋）の常備」が30.8%。

Pick Up 1：災害に対する備えの状況（問21）

（1）クロス集計 ①世帯類型別

世帯類型別では、全ての類型で「食糧や水の備蓄」が最も高くなっており、次いでほとんどの類型で「避難場所や避難方法の確認」が高くなっています。

	1位		2位		3位	
全体	食糧や水の備蓄	53.2	避難場所や避難方法の確認	38.1	非常持出品（袋）の常備	30.8
ひとり暮らし1	食糧や水の備蓄	50.0	避難場所や避難方法の確認	41.7	非常持出品（袋）の常備	25.0
ひとり暮らし2	食糧や水の備蓄	37.5	避難場所や避難方法の確認	31.3	家具の転倒防止	18.8
ひとり暮らし3	食糧や水の備蓄	50.0	避難場所や避難方法の確認	42.2	家具の転倒防止	30.4
夫婦のみ1	食糧や水の備蓄	57.6	非常持出品（袋）の常備	39.1	避難場所や避難方法の確認	38.0
夫婦のみ2	食糧や水の備蓄	58.7	避難場所や避難方法の確認	43.7	非常持出品（袋）の常備	37.8
子と同居1	食糧や水の備蓄	60.2	避難場所や避難方法の確認	33.0	非常持出品（袋）の常備	32.4
子と同居2	食糧や水の備蓄	54.3	避難場所や避難方法の確認	45.2	非常持出品（袋）の常備	35.5
親と同居1	食糧や水の備蓄	49.6	家具の転倒防止	32.4	避難場所や避難方法の確認	30.2
親と同居2	食糧や水の備蓄	40.5	避難場所や避難方法の確認	31.0	非常持出品（袋）の常備	28.6
祖父母と親と子	食糧や水の備蓄	49.1	避難場所や避難方法の確認	40.2	非常持出品（袋）の常備	28.6
不詳	食糧や水の備蓄	41.0	避難場所や避難方法の確認	33.3	家具の転倒防止	23.0

テーマの結果概要

- 保有している情報通信機器は、「固定電話」が74.6%で最も高く、次いで「スマートフォン」が73.2%、「パソコン」が60.3%。
- 情報通信機器でよく利用する機能は、「通話」が66.0%で最も高く、次いで「LINE」が61.5%、「ホームページの閲覧」が49.0%。
- マイナンバーカードの保有率は、29.0%。
- マイナンバーカードを持たない理由は、「他に身分証明書を持っているので必要ない」が57.0%で最も高く、次いで「メリットが感じられない」が48.7%、「個人情報の取扱いに不安がある」が31.0%。
- マイナンバーカードを利用したコンビニでの証明書類取得については、57.8%の方が認知。
- しかし、実際に取得したことがある方は、全体の1.2%。

Pick Up 1 : 情報通信機器の保有状況（問22）

（1）クロス集計 ①性・年齢別

性・年齢別では、男女ともに65歳未満では「スマートフォン」の保有率が約90%になっています。また、65歳以上では、「スマートフォン」の保有率が50%弱になっています。

		1位		2位		3位	
全体		固定電話	74.6	スマートフォン	73.2	パソコン	60.3
男性	18～39歳	スマートフォン	93.6	パソコン	72.2	固定電話	41.8
男性	40～64歳	スマートフォン	90.2	パソコン	80.8	固定電話	79.9
男性	65歳以上	固定電話	91.1	パソコン	58.6	ファックス	54.8
女性	18～39歳	スマートフォン	99.5	パソコン	66.3	固定電話	37.7
女性	40～64歳	スマートフォン	86.9	固定電話	76.7	パソコン	65.7
女性	65歳以上	固定電話	87.2	スマートフォン	48.8	ファックス	43.9
他	18～39歳	スマートフォン	100.0	パソコン	87.5	固定電話	75.0
他	40～64歳	固定電話	88.9	ファックス	44.4	パソコン	44.4
他	65歳以上	固定電話	71.4	スマートフォン	42.9	パソコン	28.6

Pick Up 2 : 情報通信機器でよく利用する機能の状況（問23）

（1）クロス集計 ①性・年齢別

性・年齢別では、男女ともに65歳未満では「LINE」や「ホームページの閲覧」が高くなっており、65歳以上では「通話」や「Eメール」が高くなっています。

		1位		2位		3位	
全体		通話	66.0	LINE	61.5	ホームページの閲覧	49.0
男性	18～39歳	LINE	83.6	ホームページの閲覧	65.5	通話	59.1
男性	40～64歳	LINE	68.7	通話	63.1	ホームページの閲覧	61.7
男性	65歳以上	通話	75.3	Eメール	45.5	ホームページの閲覧	38.0
女性	18～39歳	LINE	96.0	ホームページの閲覧	71.9	カメラ	65.8
女性	40～64歳	LINE	80.2	ホームページの閲覧	59.8	通話	56.0
女性	65歳以上	通話	80.5	Eメール	39.5	LINE	37.2
他	18～39歳	LINE	87.5	通話	62.5	ホームページの閲覧	62.5
他	40～64歳	ホームページの閲覧	77.8	通話	66.7	Eメール	66.7
他	65歳以上	通話	71.4	LINE	28.6	Eメール	14.3

8

地域づくりについて（問27～29）

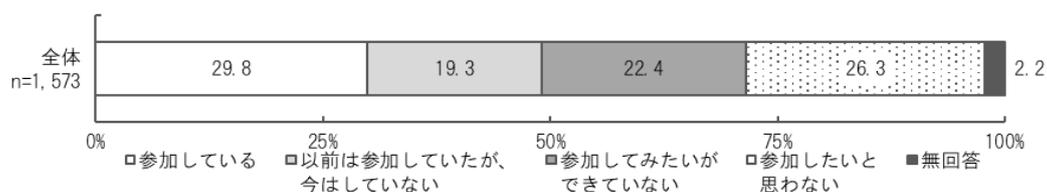
テーマの結果概要

- 地域活動への参加状況について、「参加している」が29.8%、「参加したいと思わない」が26.3%。
- 参加している、又は今後参加してみたい地域活動は、「地域での環境美化活動」が27.5%で最も高く、次いで「地域の祭り等伝統行事」が24.2%。
- 地域活動に参加していない理由は、「仕事で都合がつかない」が28.1%で最も高く、次いで「活動を知らない」が20.4%。

Pick Up 1 : 地域活動への参加状況（問27）

（1）単純集計

地域活動への参加状況について、「参加している」が29.8%、次いで「参加したいと思わない」が26.3%となっています。

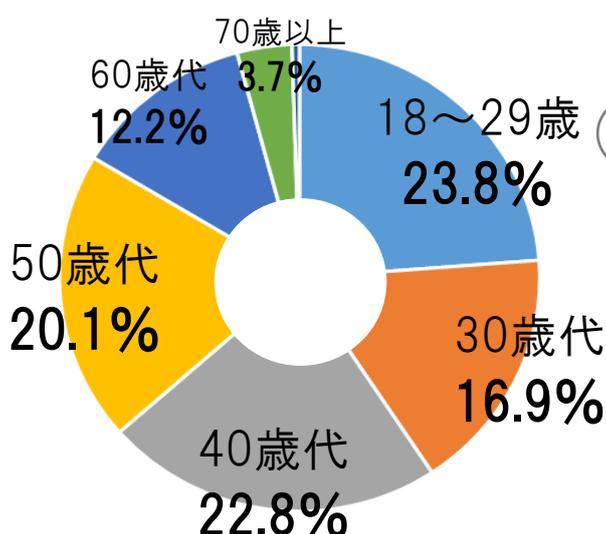


インターネット回答について

インターネット回答率

12.0%

郵送回答を含めた全回答者1,573人のうち、インターネットでの回答者は189人でした。インターネット回答の導入により、若い世代の回答率が上がりました。



インターネット回答の年代別構成割は左のとおり。40歳代以下が60%以上を占めています！



この冊子に掲載していない情報やより詳しい結果は、「奈良市民意識調査結果報告書」として、奈良市役所総務課内の行政資料コーナーでご覧いただくことができるほか、奈良市ホームページにて公開しています。

奈良市民意識調査について

奈良市では、市民の皆さんが日ごろの生活で感じていることや市政についてのご意見などをおたずねし、これからの市政のあり方を考えていくにあたっての基礎資料とするため、奈良市民意識調査を実施しています。皆さんからのご意見は、貴重な資料となっています。

[調査概要]

調査地域	奈良市全域	調査方法	郵送配布／郵送及びインターネット回答
調査対象	奈良市在住の18歳以上の男女3,000人	抽出方法	住民基本台帳による層化無作為抽出
調査時期	令和元年8月19日（月）～8月31日（土）		

※調査結果の数値は、回答の比率（％）で表記し、少数第2位を四捨五入しています。

【 令和元年度 奈良市民意識調査結果 概要版 】

発行：奈良市 総合政策部 総合政策課
〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号
電話 0742-34-4786（直通）